**第１９回観察会　2004年10月28日(木) 12:15～12:55　晴れ**

**テーマ『たねや芽生えをさがそう』**

**☆ガイドレポート**

ありきたりなようですが、実りの秋ということで植物の種子（たね）、そして実生（芽生え）を探しました。植物園は人為的に植えられた植物によって、その骨格が形づくられていますが、それらの植物は生きる中で繁殖もおこなっています。つまり、花を咲かせ実をつけているのです。

今回は時間が短いということもあって「どんぐり」に焦点を絞りました。

１．どんぐりとは：広義にはブナ科の堅果、狭義にはブナ科コナラ属の堅果を指します。ブナ科はブナ属、コナラ属、クリ属、マテバシイ属、シイ属からなります。堅くて大きな果実が特徴で、その生産量も非常に多くまた樹木としても身近なため、「どんぐり」を知らない方はいないでしょう。コナラ属の堅果はとくに渋みが強く食糧としての価値が低いことが特徴です。これがどんぐり（団栗、クリではないという意味合い）という呼び方の由来だと考えられます。広義では、渋みがなく甘みの強いクリ、シイ、ブナなども含まれますが、果実の見た目は非常に似ているので、一つの定義といえるでしょう。

２．身近にあるどんぐり：どんぐりという植物は存在しません。コナラ属だけでも日本には２０種近く自生種があります。身近にある本数も種数もじつは非常に多く、近畿ではアラカシやウバメガシ、シラカシが垣根や庭木に用いられています。カブトムシやクワガタムシと関係の深いクヌギのどんぐりはとりわけ大きく、象徴的な存在かもしれません。

３．食べてみよう：身近にたくさんあって果実の生産量も非常に多いので、知ってさえいればいくらでも手に入れ食べて楽しむことができます。京都市近辺だとシイ属のツブラジイ、スダジイ、そしてクリ属のクリを拾い集めることができます。観察会では、さすがに調理するわけにもいかないので、私が吉田山と京都御苑でそれぞれ集めてきたツブラジイやスダジイを生で試食していただきました。シイはクリ同様生でも十分食べられますが、炒って食べるのが手軽で一番のおすすめです。当日持ち帰ってくださった皆さんは、どのようになさったでしょうか。

ガイド：今村彰生さん（総合地球環境学研究所）

**☆参加者の感想**

参加者の感想文です。実名・匿名の指定がないかたはすべて匿名にいたしました。ご了承ください。

* ドングリについていろいろわかった。食べれるドングリ（スダジイ）はうまかった。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（野菜市のかた）
* ツブラジイは、おいしかった。　　　　　　　　　　　　　　　　（農学部学部生　飯塚弘明さん）
* ドングリが乾燥に弱いとは知りませんでした。　　　　　　　　　（地球研　宮島敏明さん）
* どんぐりっていろんな種類が有る事におどろきました。　　　　　　　（近所のかた）
* 今、祖母宅の休耕田に木を植えようと思っていて、カシやナラのような実のなる樹も面白いなと思いました。食べられるシイの方がいいかも。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（初めて参加したかた）
* ドングリおいしかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　（上京区のかた）
* ドングリのお話おもしろかったです。秋らしくていいですね。いつも何気なく見ている虫や植物を、あらためて見直すいい機会を作っていただいてありがとう。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* ようやく参加することができました。ドングリがすでに根を出していることや、その理由など知ることができてよかったです。イカルの食いかすがもっとも印象に残りまし。(今日のテーマではなかったけど)。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京大フィールド研　中西麻美さん）
* ツブラジイを食べられてよかった。　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 私は去年ひらったドングリの種を今年植えようとおもったが、本日の会で間違いである事がわかって良かった。　　　　　　　　　　（近所のかた）
* シリブカガシをはじめて食べました。（でも渋かった）ドングリの芽がでると思ったら根だったのがおどろき。　　　　　　　　　　（無記名のかた）
* ドングリの発芽が、あのような形でする事にちょっとびっくりしました。今日は楽しかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* たくさんドングリを見せてもらい、とても楽しませてもらいました。「どん」は「団」その他大勢の意味だったんですね。また来月楽しみにしています。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（山下敬子さん）